

肯定的評価85%以上:A, 70~84%:B, 50~69%:C, 31~49%:D, 30%以下:E

評価項目	領域	成果・取組指標(評価の着眼点)	自己評価		学校関係者評価	改善策
			アンケート		コメント	
			教職員	保護者		
教育目標	教育目標の設定	教育目標は、幼児や幼稚園の実態等をふまえたものにする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は教育要領のねらいに基づいて、園の実態を踏まえたものであったが、わかりやすく伝えていくことが不十分だった。</li> <li>・園だよりだけでなく、担任からもクラスだよりやお便り帳、クラス懇談、家庭訪問等の場を捉えて園の考えや活動のねらいを積極的に伝えるよう努力することが必要だった。</li> <li>・そのためにも、職員が年度当初だけでなく、日々の実践と評価の中で教育目標や経営方針を共通理解できるよう努めることが必要だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に教育目標・経営方針をしっかりと伝えるために、総会や園だよりだけでなく、クラス担任からも機会ある毎に具体的に伝えるよう努める。</li> <li>・職員が年度当初だけでなく、日頃から日々の実践をもとに、常に目標や方針と照らし合わせて評価したり、その都度みんなでも共通理解をはかるように努める。</li> </ul>
	経営方針	教育目標や今年度の重点目標を教職員や保護者に具体的に説明していく。	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標設定に従い目標を月々の園便りに掲載・説明され、保護者への周知・伝達は十分できていた。</li> <li>・教育目標・経営方針について、先生方は大変厳しく評価しておられるが、保護者は先生方の取り組み方を良く評価している。各種行事に参加させてもらっているが、父兄や家族、そして地域の方々の参加も多く見受けられる。これは園だより・クラスだよりの定期的な発行が園一体の取り組みとして父兄・家族・地域への周知徹底・伝達が確実に行われている現れであり、十分評価できる。</li> <li>・総会や幼稚園行事等において、教育の目的や目標についてのお話を園長先生を中心にわかりやすくお話していただいた。</li> <li>・教育目標や経営方針が計画書で明確にされ、目標に向けて教育されているのは評価できるが、3歳児受け入れにより職員の負担が多くなるのが心配。</li> <li>・保護者への説明は園便り等の広報で伝わと思うが、保護者の園に対する関心がどの程度あるか</li> </ul>	
教育課程及び指導	教育目標達成の具現化	目指す幼児像に基づいた学級経営案を作成する。	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年から3歳児クラスがスタートしたが、教育目標や発達段階、実態等を踏まえて作成した学級経営案に基づいて実践することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児保育がスタートしたが、職員はわずか1名増にとどまっている中、各種行事を見るにつけ、園長先生を始め一丸となって取り組んでおられる姿は素晴らしく、評価できる。</li> <li>・親子で登園する姿をよく見かけるが、園児が笑顔で親の前を歩いている。これは園児が、園に行くことを楽しみにしている現れだと思う。</li> <li>・江津幼稚園は自然環境に恵まれており、なかよし森での冒険、カメ・ウサギの飼育、裏の畑での野菜作り等々、年少・年中・年長それぞれが素晴らしい体験をしている。</li> <li>・今年度からの3歳児保育に伴い、フェンス・門扉が設置されたとはいえ、園庭・遊具等の危険箇所の検証を行う必要があると思う。</li> <li>・園児の登園に合わせて園長先生が一人一人に「おはよう」と大きな声であいさつしているが、園児達も大きな声であいさつしている。また、園外でも園児を連れた親御さんと出会うこともあるが、子ども達も笑顔であいさつをしてくれている。</li> <li>・本年度3歳児クラスがスタートし、幅広い年齢層の園児が増えた中においても、柔軟に段階別にそれぞれの教育目標を達成しようとする取組が見られました。特に屋外で体を動かして遊ぶ取組や、なかよし森で自然に親しむ取組を評価しています。</li> <li>・3歳児の受け入れにより、教育目標や子どもにあった指導ができたことと評価されている。教職員の</li> </ul>
		子どもたちが幼稚園に行くことをいつも楽しみにするよう努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組は担任の持ち味もあり、クラスで違いがあったものの概ね評価できる取組ができた。</li> <li>・自然との関わりや表現活動等、個々の思いや興味関心を膨らませながら「遊び込む姿」を大事にしてきた。その結果、一人一人の経験や人間関係の幅が広がってきた。今後も園全体で教育課程を踏まえ、活動の意義を十分理解し合うと共に、ねらいを明確にした取組をしていくことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶については、家庭と一貫した指導ができるよう共通理解できる方法を探ったり、強化期間を設けるなど工夫する。</li> <li>・戸外での活動や自然との関わりを大切にされた教育活動の充実を図る。そのためにも、環境整備や安全点検をしっかり行う。</li> </ul>
		戸外で体を動かして遊ぶことが十分出来るようにする。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の登園に合わせて園長先生が一人一人に「おはよう」と大きな声であいさつしているが、園児達も大きな声であいさつしている。また、園外でも園児を連れた親御さんと出会うこともあるが、子ども達も笑顔であいさつをしてくれている。</li> <li>・本年度3歳児クラスがスタートし、幅広い年齢層の園児が増えた中においても、柔軟に段階別にそれぞれの教育目標を達成しようとする取組が見られました。特に屋外で体を動かして遊ぶ取組や、なかよし森で自然に親しむ取組を評価しています。</li> <li>・3歳児の受け入れにより、教育目標や子どもにあった指導ができたことと評価されている。教職員の</li> </ul>	
		思い思いに製作をしたり、絵を描いたりすることを楽しめるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の登園に合わせて園長先生が一人一人に「おはよう」と大きな声であいさつしているが、園児達も大きな声であいさつしている。また、園外でも園児を連れた親御さんと出会うこともあるが、子ども達も笑顔であいさつをしてくれている。</li> <li>・本年度3歳児クラスがスタートし、幅広い年齢層の園児が増えた中においても、柔軟に段階別にそれぞれの教育目標を達成しようとする取組が見られました。特に屋外で体を動かして遊ぶ取組や、なかよし森で自然に親しむ取組を評価しています。</li> <li>・3歳児の受け入れにより、教育目標や子どもにあった指導ができたことと評価されている。教職員の</li> </ul>	
		歌ったり踊ったりすることすることが楽しめるようにする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の登園に合わせて園長先生が一人一人に「おはよう」と大きな声であいさつしているが、園児達も大きな声であいさつしている。また、園外でも園児を連れた親御さんと出会うこともあるが、子ども達も笑顔であいさつをしてくれている。</li> <li>・本年度3歳児クラスがスタートし、幅広い年齢層の園児が増えた中においても、柔軟に段階別にそれぞれの教育目標を達成しようとする取組が見られました。特に屋外で体を動かして遊ぶ取組や、なかよし森で自然に親しむ取組を評価しています。</li> <li>・3歳児の受け入れにより、教育目標や子どもにあった指導ができたことと評価されている。教職員の</li> </ul>	

肯定的評価85%以上:A, 70~84%:B, 50~69%:C, 31~49%:D, 30%以下:E

評価項目	領域	成果・取組指標(評価の着眼点)	自己評価		学校関係者評価	改善策	
			アンケート		コメント		
			教職員	保護者			
		喜んで絵本を見たりお話を聞いたりすることができるようにする。	A	A	日頃の努力により成果が出ていると評価できる。 ・狭い園庭で良く工夫され、自然との関わりも見受けられ、園児の遊ぶ姿は伸び伸びと見えて楽しい。 ・挨拶は園の中では進んでできているが、園外では促されて挨拶する園児が見受けられる。習慣づけるのは根気よく。		
		身近な動植物や、周辺の自然に十分かわって遊べるようにする。	A	A			
		進んで挨拶することができるようにする。	A	B			
教育課程及び指導	環境の構成と教師の役割	集団の中で、ありのままの自分が出せるように援助する。	A	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児保育がスタートしたが、年齢や発達段階を踏まえた基本的な生活習慣の定着や、個に応じた支援・集団との関わり指導、環境構成等々、生活の中での細かい支援・指導の在り方については暗中模索の一年だった。</li> <li>・評価としては概ね肯定的な評価をいただいたが、教師が状況に応じてどのような役割を果たすべきかについては、今後園全体で研修をして聞く必要がある。</li> <li>・3年というスパンで見通しを持ち、一人一人を丁寧に見守り、今すべき指導や必要な支援が迅速・的確にできるよう、体制作りや研修を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児保育開始により、一層個性豊かな園児が多い中、一人一人の特性を把握し、職員全員がそれを共有し、年齢に応じた集団生活でのルールや相手を思いやる気持ちの醸成を指導されており、子ども達はのびのびと行動している。</li> <li>・入園式と現在の子どもの姿をみたと、成長は目を見張るものがある。これはひとえに先生方が一丸となって取り組まれた賜であり、大いなる評価できる。</li> <li>・ウサギやカメなど・生き物の飼育、裏の畑での野菜栽培など、季節に応じた学習を通して「命の大切さ・ものを育てる豊かな心、好奇心、観察力、忍耐力等が醸成されていることが見て取れる。</li> <li>・園児達は先生方の日常の行動をよく観察しており、困り感のある子どもへの対応も自分たちで会得して行動している様子がよくわかる。</li> <li>・各種行事で園児達は、友達を気遣いながらも伸び伸びと行動しており、日頃から先生方がきめ細やかな指導をされている成果の現れだと思ふ。</li> <li>・先生、職員の方々は、それぞれの個性や特性に十分配慮していただき、丁寧に指導していただきました。その結果、子ども達が内発的に幼稚園に行きたいという意思表示を常にしています。3学年になった今、その細やかな配慮が特に評価されるべきだと考えます。</li> <li>・3歳児保育がスタートして教職員の不安もあったと思うが、年齢や発達段階を考えながら日々の取組、努力がみれ、3歳児の成長していく姿がほほえましく感じ評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園としての指導の柱を基盤に、3才~5才の発達段階をふまえたより細かな計画的・系統的な指導計画を作成する。</li> <li>・発達段階や個に応じた基本的な生活習慣の確立、集団との関わり、環境構成などの面から指導・支援の在り方を確認し、共通理解をはかる。</li> </ul>
		衣服の着脱や持ち物の始末が自分で出来るように指導する。	A	A			
		集団の中で話を聞いたり、一緒に行動することの大切さを指導する。	A	/			
		一人一人の発達や特性に応じた援助や環境の構成をする。	A	/			
		自分で考える力、自分で行動する力を大切にしたい指導を心がける。	A	A			
		日頃から命を大切にしたい心や、ルールを守る態度を育てるように努める。	A	A			
		相手の気持ちを傷つける言動をしないこと大切さを教えたり、思いやりの心が育つように努める。	A	A			
		日頃から苦手なことや嫌いなことにも意欲を持って取り組むように支援する。	A	A			

肯定的評価85%以上:A, 70~84%:B, 50~69%:C, 31~49%:D, 30%以下:E

評価項目	領域	成果・取組指標(評価の着眼点)	自己評価		学校関係者評価	改善策
			アンケート		コメント	
			教職員	保護者		
安全管理	園内外の安全指導	施設・設備の環境構成を十分にを行い、安全に過ごせるようにしていく。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児保育の開始でフェンスの設置等により遊び場が制限された部分があり、「危険箇所」は減少したと思われるが、園庭・遊具等定期的な点検を実施していく必要がある。</li> <li>・日常の行動を通して「してはいけないこと・危険なこと」をしっかりと教育・指導して欲しい。</li> <li>・園門整備という具体的対策を評価しています。さらに、日頃から遊具や施設の整備を行っていただき、安心して子ども達は遊ぶことができます。</li> <li>・幼稚園が古く老朽化の進む中、3歳児の受け入れに伴う園児の増加等、施設・設備の環境作りが難しい中、教職員の努力により安心・安全を保ちながら教育ができています。</li> <li>・保護者の不安な気持ちはよくわかります。しかし、子どもの時に覚えた危険予知能力は忘れません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の安全を第1に考えて施設設備の整備を行うと共に、遊具等の定期的な点検等、市教委との連携も密に行っていく。</li> <li>・職員でできる環境整備は積極的にやっていく。</li> <li>・安全や危険回避の指導を、年齢や実態に合わせて行っていく。</li> </ul>
	安全対応能力の向上	危険なことはしないことや、人に迷惑なことはしないということを発達段階に応じて指導する。	A	A		
保健管理	生活指導	発達段階に応じて基本的な生活習慣や健全な生活態度を育てよう努める。	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね肯定的な評価だが、生活指導では今後も発達段階に応じて自分のことは自分でできるよう指導することが必要である。</li> <li>・給食指導では「食べることが楽しい」指導をめざして、発達段階を踏まえて指導していきたい。</li> <li>・食育や健康管理は家庭との連携が最も必要であることから、保護者と情報交換を密にしながら協力して指導していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳児も含め年齢や発達段階に応じた形で、基本的な生活習慣の確立と自分のことは自分でできる力を育てる指導の在り方を積極的に探っていく。</li> <li>・家庭と連携、協力して食育や保健指導ができるよう、保護者・家庭への働きかけを積極的に行うと主に、研修の機会を設ける。</li> </ul>
	給食指導	何でも食べ心や体を元気にすることが大切だという食育を推進する。	A	A		
	保健衛生	風邪など病気にかからないよう手洗い・うがいなどの習慣が身につくようにする。	A	A		
研修	職員研修・研究の取り組み	職員としての自覚をもち、研究・研修を行い、実践に生かす。	C	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常業務をこなしながらの研修・研究は大変だが、先生方のベースに合わせた方法でスキルアップを図り、今後の教育・指導に反映させて欲しい。</li> <li>・石見地区研修大会に園長先生を始め職員の方々と参加したとき、江津幼稚園の先生方の積極的に学ぶ姿勢に感銘を受けました。</li> <li>・研修・研究は結果を求めず、教職員で園児一人一人の個性を活かし育てるという共通理解のもと、協力して保育できればよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に研修に参加したりその成果が実践に繋がるよう、情報提供や報告の場を確保する。また、指導や研究の取組にも柔軟に活かしていく。</li> </ul>
		苦手なことにも挑戦し、スキルアップできるよう努力していく。	A			

肯定的評価85%以上:A, 70~84%:B, 50~69%:C, 31~49%:D, 30%以下:E

評価項目	領域	成果・取組指標(評価の着眼点)	自己評価		学校関係者評価	改善策	
			アンケート		コメント		
			教職員	保護者			
組織運営	園務	職員会議や朝礼、各園務の運営を適切に行う。	A	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会等で全員で研修ができた。今後は学んだことを有効に使う工夫をしていく必要がある。</li> <li>行事や活動などがマンネリ化する傾向があった。その都度全員で確認や共通理解をしていくなど、常に新たな気持ちで取り組む姿勢が必要だった。</li> <li>子どもの姿を職員で共有することが個の理解に繋がる。そのためにも、日頃からもっと子どもの姿を伝える努力をしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3歳児保育開始による増員は1名と厳しい現状の中、各種行事を一丸となって立派に成し遂げられていることは大変評価できる。</li> <li>職員室に何度も訪問させていただきましたが、先生同士のコミュニケーションは良好で、子ども達の健全な発育を支える体制や組織文化がしっかりと構築されていると強く感じました。</li> <li>教職員の園児に対する関わりは、研修の成果が伺える指導ができています。</li> <li>子どもの姿を日常的に話し合い、いろいろな角度から子どもの様子を見ることにより、理解できる良い保育ができるのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員同士の意思疎通が円滑に行える職場づくりをめざすと共に、園運営への参画意識を高める手だてを工夫する。</li> </ul>
	協力体制	教職員が協力して教育活動にあたり、教育効果を上げる。	A	A			
保護者・地域との連携	地域	地域の教育力を生かし、継続した交流を推進する。	A	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立の面で、家庭の協力や支援を得ることが難しかった。</li> <li>小学校に就学前の子ども達の現状や実態を知ってもらうためにも、交流をどのようにしたらよいか考える必要があった。</li> <li>保幼小連携の必要性は十分理解しているが、小学校への働きかけは遠慮やためらいがあった。もっと積極的な連携を進めたい。特に就学に向けた連携の面が課題。</li> <li>教育方針を保護者に十分伝えきれなかったと反省している。伝える方法や場の設定が課題である。</li> <li>保護者には送迎時に声がけしたり、お便り帳等で情報を伝えるよう心がけたが、悩みを聞いたり相談相手になったりするまでには至らなかった。ゆっくり話す時間がなかなかとれず、相談しづらい雰囲気があるのかもしれないと反省している。今後は保護者の話に、もっと積極的に耳を傾けていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流は、核家族化が進み、若い親子だけの家族にとって昔からの伝統、先人達の多くの知識、技能、経験の伝承等、多くのことが親子で体得できる有意義で貴重なことと思う。園として今後も継続して取り組んで欲しい。</li> <li>地域交流は地域の方も楽しみにしている行事で多くの協力を得ている。これも園が一丸となって事にあたっていることを、地域の方が理解していることであり、先生方の熱意・努力に敬意を表したい。</li> <li>保・小交流は年間計画に明記され評価できる。</li> <li>保護者との懇談、会話、伝達を園は厳しい見方をされているが、保護者はできていますと評価されている。保護者としては登園・退園児の立ち話でも十分安心されているのではないかな。</li> <li>基本的な生活習慣は園生活の指導に限界があり、家庭・保護者の協力が絶対条件であり、園と保護者との連携を密にしていける必要があると思う。</li> <li>各種式典や行事に小学校の校長先生が来賓で来られているなど、連携がなされていると感じました。保護者との連携は、PTA活動を通じて十分なされていると感じましたが、園児個別に関する相談など、保護者側が高い教育的関心を持ち続け、それを躊躇することなく相談する主体性と、それを可能とする関係性の構築が課題だと感じました。</li> <li>地域の方々との交流は核家族化が進む中、子どもは親や家族だけでなく、地域の教育力を活かし、地域住民・幼稚園・保護者が一体となって子育てに努力、協力する。</li> <li>保護者との会話は、お便り帳などを有効に使い保護者とのつながりを持つ。先生も大変でしょうが、園児のわずかな変化も書いてお知らせしては。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育所や小学校との連携を深めるために、交流の在り方を検討したり関係機関との連絡調整の場を積極的に設ける。</li> <li>交流のねらいを明確にして、実施前後の担当者協議を、実のあるものにする工夫をする。</li> <li>お便り帳の有効な活用など、いろいろな工夫を通して保護者との信頼関係を構築し、良き相談相手になれるよう努める。</li> <li>地域の教育力を活かすためにも、地域・保護者・幼稚園の連携は今後も工夫して取り組む。</li> </ul>
	保育所・小学校	円滑な就学に向けて保・小学校と連携した教育活動を推進する。	C	/			
	保護者	より円滑な就学に向けて小学校と連携した教育活動を進める。	C	A			
		基本的な生活習慣の形成について家庭の協力・支援が得られるよう連携を図る。	B	/			
		保護者と会話する時間を出来るだけ設け、悩みを聞いたり、子育てのよき相談相手になれるようにする。	C	A			